

上場から6 ヶ月が経過

6月11日、サウジアラムコ（以下、「アラムコ」）が国内の証券取引所タダウルに新規上場してから6 ヶ月を迎えた。Vision 2030 の柱の1 つとして注目を集めてきたアラムコの上場は、2019年12月11日、発行済株式の1.5%（30億株）を上場することで実現された。株式公開価格が32リヤル（8.5ドル）となったことから、資金調達金額は史上最大の256億ドルを記録。また、1月12日に、4.5億株を追加放出し、合計調達額は294億ドルに及んだ。

サウジアラムコ (Saudi Aramco)

サウジアラビア東部州のダーランに本社を構える、国営石油会社。2019年12月の株式上場際に公表された純利益は、1,110億ドル

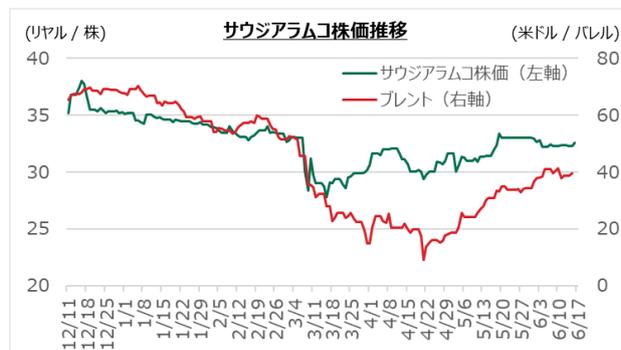
（2018年12月期）となり、石油生産量と共に、世界一を誇る。

従業員数は、79,000人に上り、政界、経済界に数多くの優秀な人材を輩出している。

株価の推移

上場後6 ヶ月間の株価は、終値ベースで27.8リヤル～38リヤル（7.4ドル～10.1ドル）の間で推移した。最高値は、12月16日に付け、かねてから言及されてきた“時価総額2兆ドル”を上回った。一方、最安値は、OPECプラスの協調減産の合意決裂を受け、ブレント価格が20ドル代に突入した3月16日に付けている。

6月に入ってからは概ね、上場時の公開価格32リヤルをわずかに上回る水準で推移している。



（アラムコ、EIAの公表データより日サビジョンオフィス作成）

上場の賛否とアラムコの重要性

アラムコの上場については、賛否両論があるのも事実である。当初は、株式の5%を海外市場で上場し、1,000億ドルの調達を予定していたが、石油価格の下落等、市場の状況も鑑み、まずは、国内における上場が選択された。また、“時価総額2兆ドル”という値が伝えられてきたが、上記の通り一時その水準を上回ったものの、足元は1.7兆ドル強の水準で推移している。

一方、上場に際し初公表された財務内容は、世界一の石油会社であることを印象付けた。特に、利益水準の高さ、1バレル2.8ドルとされる石油生産コスト（OPEX）の低さは驚きを与えた。

アラムコは、産業多角化に向かうサウジ経済の土台であり、その重要性は不変である。6月17日には、サウジの石油化学会社SABICの株式70%の取得を発表しており、石油産業の下流戦略の進展も期待される。海外での上場の動きも含め、今後も動向に注目が集まる。（2020年6月）

お問合せ先

日・サウジ・ビジョンオフィス・リヤド

Address: 5th Floor, Council of Saudi Chamber Building, Riyadh 11614

Tel: +966-11-219-9155 E-mail: infovo@sj-visionoffice.jetro.go.jp

Website: <https://www.jetro.go.jp/sj-visionoffice/>